神戸新聞 2019年06月16日 日曜日 面名 阪神 １４ 24ページ

山口中学 保護活動50年

モリアオガエル卵塊採集→ふ化→放流

西宮

西宮市立山口中学校（同市山口町上山口2）の生徒がモリアオガエルの保護活動に取り組み、50年を迎えた。校内でつくる保存会には今年、28人の生徒が繁殖活動に手を挙げた。生徒らは「昔から続く伝統を引き継ぐ一員になりたい」と飼育小屋で日々世話に励んでいる。（名倉あかり）

モリアオガエルは、兵庫県のレッドデータブックでBランクに指定。木の上に卵を産み、同校の理科教諭、釜渕章匡（あきまさ）さん(43)は「指先の吸盤が発達しており、跳ぶ力や泳ぐ力より木に登る力が強い」と話す。

池上達校長(58)によると、同校は昭和44（1969）年からモリアオガエルの保護活動を始めた。理科部の生徒が生息地の実態調査や人工ふ化などに取り組み、2006年には「環境大臣賞」を受賞した。

しかし、2016年、理科部は部員が減って廃部に。「世代が変わってもカエルの保護を通じて地域とつながってほしい」と、池上校長は翌年、「モリアオガエル保存会」を発足させた。

今年は1～3年生28人が部活動の傍ら、朝や放課後に飼育小屋に通う。

生徒は5～7月、校区にある池でモリアオガエルが木の上に産み付けた「卵塊」を探す。見つけた卵塊は枝ごと切り取って校内の飼育小屋へ持ち帰り、池に見立てた水槽の上につるす。乾燥しないように霧吹きでミネラルウオーターをスプレーするのが大事な日課だ。

今年も、飼育小屋には卵塊が並び、もうすぐふ化の時期を迎える。ふ化したオタマジャクシは近くの池に放流する。

保存会の3年、星出美咲さん(14)は「卵塊からオタマジャクシが出てくるところを今年も見たい」と期待に胸を膨らませていた。

今年は保存会に28人

上モリアオガエルの卵塊に水を吹き付ける山口中学校の生徒＝西宮市山口町上山口2　下モリアオガエル（釜渕章匡教諭提供）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前【　　】

① 山口中学の生徒たちがモリアオガエルの保護を続けている理由を20字以内で説明しましょう。

② モリアオガエル保存会の生徒たちは採種した卵塊をどのように飼育していますか。

（　　）

③ ふ化した後はどうしますか。

（　　）

NIEワークシート／中学校／理科、朝NIE